

# 平成 29 年度 事業報告書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

## 目 次

### I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 法人の所在地
- 3 認可年月日
- 4 沿革及び学園の組織
  - (1) 学園の沿革
  - (2) 学園の組織
  - (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名
  - (4) 設置する学校・園の名称及び所在地
  - (5) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況
  - (6) 設置する学校・園・学科等教員・保育士数の状況

### II 事業の概要

※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

### III 財務の概要

※別紙資料の通り

学校法人 三浦学園

## I 法人の概要

### 1 法人の名称

学校法人 三浦学園

### 2 法人の所在地

東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

### 3 認可年月日

昭和 19 年 3 月 31 日

### 4 沿革及び学園の組織

(1) 学園の沿革 (別紙参照)

(2) 学園の組織 (別紙参照)

(3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名

#### ①理事・監事

〈平成 30 年 3 月 31 日現在〉

役職	選任事項	氏名	現職
理事長	第 2 号 理事	三 浦 洋 義	学園長
常務理事	第 2 号 理事	根 岸 順 一	法人本部事務局長
理事	第 1 号 理事	氏 森 英 亜	有明教育芸術短期大学学長
理事	第 3 号 理事	志 賀 平 治	
理事	第 3 号 理事	井 上 嘉 明	井上税務会計事務所長
理事	第 3 号 理事	富 永 光 太 郎	(株)リヴィジョン代表取締役社長
監 事		朝 倉 和 行	(株)朝倉代表取締役
監 事		村 滋	(有)ムラ・アソシエイツ代表取締役

#### ②評議員

役職	選任事項	氏名	現職
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 洋 義	学園長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	根 岸 順 一	法人本部事務局長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	中 西 菊 乃	有明教育芸術短期大学事務局次長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	菊 本 和 仁	日本音楽高等学校長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	金 子 慶 子	日本音楽学校保育園長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	小 菅 雅 之	法人事務局経理課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	渋谷 匡	法人事務局広報課長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	水 本 眞 澄	日本音楽学校幼稚園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	新 井 清	(有) 希望商事代表取締役
評 議 員	第 2 号 評 議 員	平 井 キミ子	日本音楽高等学校同窓会監査

評 議 員	第 3 号 評 議 員	森 戸 由 久	創価女子短期大学名誉教授
評 議 員	第 3 号 評 議 員	志 澤 徹	吉浦・志澤法律事務所 弁護士
評 議 員	第 3 号 評 議 員	根 本 美 香	(公社) 日本バレエ協会監事

(4) 設置する学校・園の名称及び所在地

名称	所在地
有明教育芸術短期大学 子ども教育学科	〒135-0063 東京都江東区有明二丁目 9 番 2 号
日本音楽高等学校 普通科 (幼児教育コース) 音楽科 (音楽コース) (バレエコース) (舞台芸術コース)	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号
日本音楽学校幼稚園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号
日本音楽学校保育園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

(5) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

	入学 定員	収容 定員	学生生徒園児 現 員 数	平成 29 年度
				入学者数
有明教育芸術短期大学	100 名	300 名	225 名	69 名
子ども教育学科	100	300	225	69
日本音楽高等学校	100	300	193	73
普通科 (幼児教育コース)	0	60	16	0
音楽科 (幼児教育コース)	100	240	6	6
(音楽コース)			41	14
(バレエコース)			65	27
(舞台芸術コース)			65	26
日本音楽学校幼稚園	35	150	96	35
日本音楽学校保育園	9	26	30	9

(6) 設置する学校・園教員・保育士数の状況 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

①短大教員

設置校名	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	兼務者
有明教育芸術短期大学	6	2	8	0	0	16	21

\*学長は教授に算入

②高校教員・幼稚園教員・保育園保育士

設置校名	専任教諭・保育士	兼務者
日本音楽高等学校	17	47
日本音楽学校幼稚園	6	0
日本音楽学校保育園	12	0

II 事業の概要

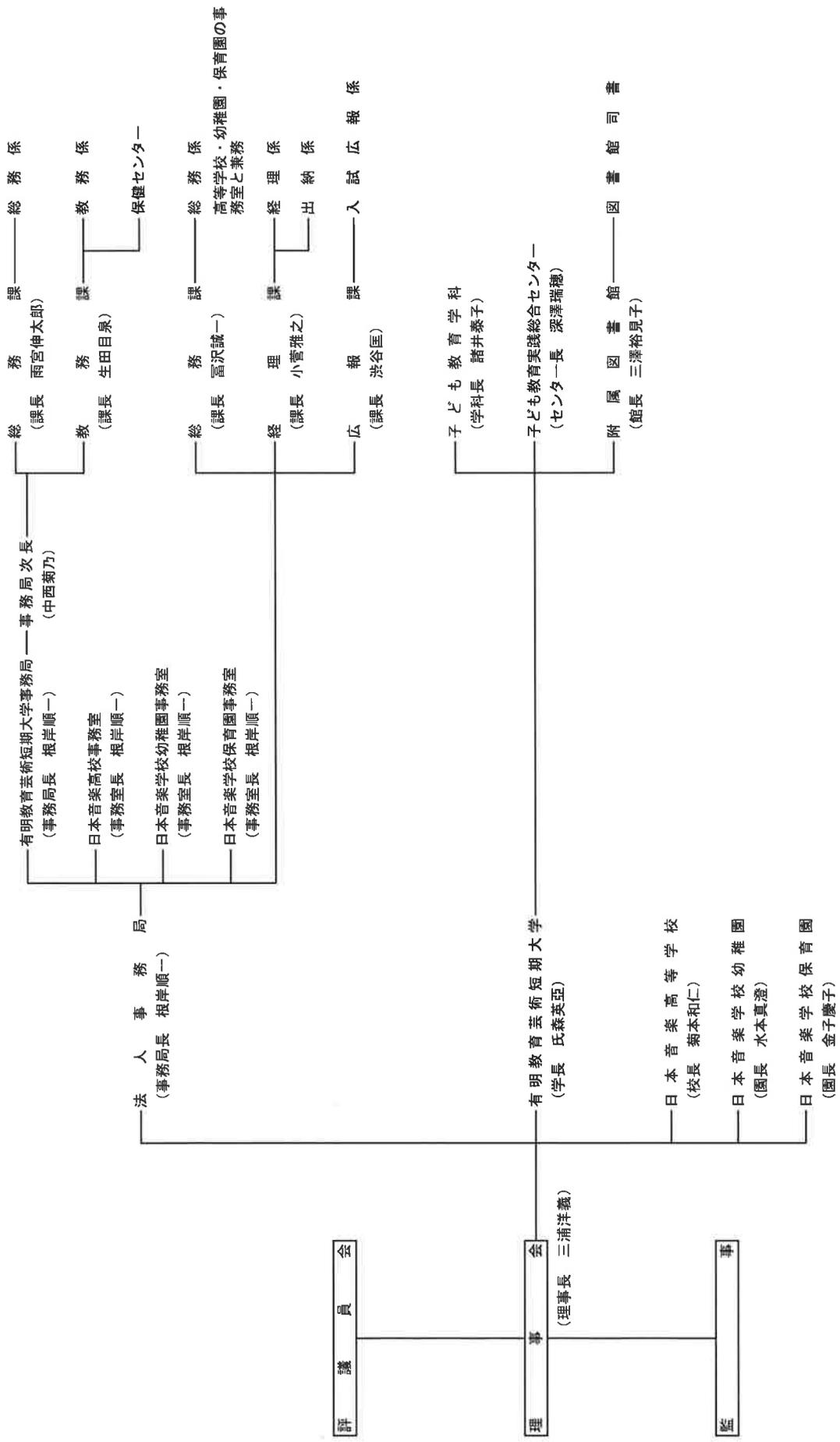
※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

III 財務の概要 別紙資料の通り

法	の	山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立
沿	革	女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
		校舎を中野打越に移転
		日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去
		学校法人三浦学園成立(3月31日)
		校舎を品川区豊町に移転
		日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置
		日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属中学校、日本音楽高等学校を設置
		日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける
		日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置
		日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止
		日本音楽学校に厚生大臣指定の保育養成科を設置
		日本音楽学校が専修学校に認可
		日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工 日本音楽高等学校 音楽科「バリエーション」設置
		日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工
		三浦洋義理事長及び学園長に就任
		日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止
		日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置
		厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置
		日本音楽学校保育園設置
		日本音楽高等学校 普通科「幼児教育コース」設置
		日本音楽学校創立100周年
		有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)
		有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学
		日本音楽学校を廃止 日本音楽学校附属幼稚園を日本音楽学校幼稚園に園名変)
		日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止
		有明教育芸術短期大学芸術教養学科学生募集停止
		有明教育芸術短期大学芸術教養学科廃止
		日本音楽高等学校 普通科募集停止
		日本音楽高等学校 幼児教育コースを音楽科として募集

I-4-(2) 学園の組織

(平成30年3月31日)



## 平成 29 年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

平成 29 年度（以下元号略）は、学生生活支援、キャリア形成・就職支援対策、地域との連携・貢献等を中心にその成果が具体的な形で現れるよう努めた。一方、入学定員の充足に向けて努力したが平成 30 年度の入学者が 48 名に止まったため、入学定員充足を本学における喫緊の課題としてさらに努力する。

### 1 教育活動

- (1) 授業：大学歴に基づき、格段の問題もなく授業を遂行した。人権に関する相談事例も発生しなかった。
- (2) 学則の整備等：下記の整備を行った。
  - ①有明教育芸術短期大学福祉奨学金
  - ②有明教育芸術短期大学 2 年間で 3 年間学べる奨学金規程
  - ③有明教育芸術短期大学学内ワークスタディ規程
  - ④原級留置者の学生納付金に関する規程
  - ⑤学則の一部（別表第 1 教育課程）改正
- (3) 学生ハンドブックの作成・配布：平成 30 年度学生ハンドブックを作成し、学生及び教職員に配布した。
- (4) 入学前教育の実施：入学後の勉学及び学生生活へスムーズな移行を図るため入学予定者に必修課題（読書感想文）と選択課題（ピアノ実技講座または保育関連施設調査レポート）を実施した。
- (5) 個別指導：履修カルテを基にクラス担任による個別指導を行った。
- (6) その他

### 2 附属図書館

- (1) 開館日数・時間：年間 187 日（通常期 9：00～18：00、休業期 10：00～15：00）開館した。
- (2) 入館者数：年間 7,708 人（前年度比－1,072 人）、一日平均 41.2 名が入館した（全学生に対する 1 日平均利用率 10.5%、前年度比＋0.7%）。学習や読書の場として利用する者が増えた。
- (3) 蔵書等：図書 18,800 冊（前年度比＋426 冊）、視聴覚資料 774 点、逐次刊行物 34 タイトル。
- (4) 貸出図書冊数：年間貸出 478 冊（前年度比＋6 冊）、実習前（親子サロンを含む）における絵本紙芝居の貸出し及び卒業研究用資料の貸出しが多かった。
- (5) 学生に対する情報教育：図書館ガイダンスや資料検索方法に関するガイダンスを実施した。

未登録図書（約 1,400 冊）が多い状態が続いているため、30 年度から「有明教育芸術短期大学学内ワークスタディ」（予算：540,000 円）を活用し、整備の迅速化を図る。

### 3 教員の人事（異動）

- (1) 退職者：山本直樹准教授（担当科目「ドラマ表現」・他）、岡本仁美講師（担当科目「保育学」・他）の退職を承認した。また、藤田剛志講師（担当科目「理科」）を含む 4 名の非常勤の退任を承認した。
- (2) 採用者：山崎美穂講師（担当科目「情報機器」他）。また、大寫竜午氏（担当科目「理科」）を含む 7 名の非常勤講師の採用を承認した。
- (3) 昇任：山田麻美子准教授の教授昇任及び菊地大介講師、木田竜太郎講師、田中正代講師 3 名の准

教授昇任を承認。

上記により、30年度は教授6名、准教授3名、講師5名の14名になる（29年度、教授5名、准教授2名、講師8名の合計15名）。

#### 4 教員の管理：教員の学外活動について適正な管理を行った。

- (1) 他大学等非常勤講師：13件を承認した。
- (2) 教員の学外活動：19件を承認した。

#### 5 自己点検・評価

- (1) 情報公開：28年度自己点検・評価結果をホームページで公開した。
- (2) 私立大学改革総合支援事業（タイプ1）申請に向けた取り組み：第三者評価実施要項及びIR規定を整備した。また、第三者評価者選定作業を進めた。

続けて29年度自己点検・評価作業を進めるとともに上記の事業（タイプ1）で掲げている評価項目に対応した教学マネジメントを整備し、80点以上の得点が得られる見通しがついた時点で申請する。

#### 6 研究の奨励と研究奨励金獲得に向けた努力

教員による学外からの研究奨励金獲得の現状を改善するため下記の支援を行った。

- (1) 教育研究助成費の交付：下記の2件に助成費を交付した。
  - ① 杵鞭広美教授（代）・岡本仁美講師・田中正代講師  
助成額：60万円（29年度30万円、30年度20万円、31年度10万円）  
研究課題名：「インクルーシブ教育の理念に基づく幼小連携に関する研究」
  - ② 岩本圭子講師  
助成額：50万円（29年度25万円、30年度15万円、31年度10万円）  
研究課題名：「幼稚園、保育所、認定こども園における与薬対応について～主に江東区内の園（所）を対象に～」
- (2) 紀要への投稿奨励：有明教育芸術短期大学紀要第9巻に合計16編を掲載した。教育課程再認定で教員の教育研究業績審査を控えていたこともあって、投稿・掲載数は28年度（6編）に比べて大幅に増えた（過去最多）。
- (3) 有明教育芸術短期大学子ども教育実践研究創刊号（第一巻）の刊行：教員の教育実践的研究を紙上発表する機会を増やすために刊行した（原著論文1編、研究ノート1編、子ども教育実践総合センター事業報告を掲載）。
- (4) 学外助成金：獲得した学外助成金は下記の一件だけであった。  
杵鞭広美教授（代）：公益財団法人前川財団助成金450,000円  
課題「外国にルーツのある子どもの日本語の使用とコミュニケーション力の発達に関する調査研究」
- (5) 教員の学内研修：下記の通り実施した。
  - ① SD/FD研修：学外から講師を招き、前期に「外部研究助成金獲得に向けた申請のポイント」、後期

に「教職課程コアカリキュラム導入と再課程認定について」を研修した。

- ②授業見学：前期「保育教材研究A（うたと手遊び）」と「音楽Ⅱ（うたと楽器）」、後期「保育内容（身体表現）」と「生活」を教員が見学して担当者との検討会を行い、授業改善に資した。

教員の教育研究活動とその成果公表（学会誌等）の活発化及び外部からの研究助成金獲得の向上を目指して上記の支援を継続する。特に教育研究助成費交付の成果については32年度以後をめどに検証を始める。

## 7 募集対策

### (1) オープンキャンパス（OC）

- ①実施回数：28年度より1回増して15回実施した。
- ②受験対象の参加者：28年度より52名減の113名であった。また、OCに参加して出願した者も28年度より18名少なかった（入試広報課資料参照）。
- ③アンケートの結果：参加しようと思った理由として参加者が回答した項目では、「ホームページを見て」、「高校の先生の紹介」、「受験を検討しているから」等で頻度が高かった。
- また、OC内容について参加者の69%が「とても満足」、同じく23%が「満足」しており、進路選択に当たって重視することとして「保育士資格取得」、「幼稚園教諭免許取得」、「大学の雰囲気・校風」、「学生生活」等を挙げている。

### (2) 特別講座・出前授業・校内見学

#### ①日本音楽高校特別講座（交流会）

- ・日時：9月22日（金）13：00～16：00
- ・参加者：幼児教育コース1～3年生20名
- ・内容：大学概要説明、模擬授業①「音楽表現」、模擬授業②「造形表現」、他

#### ②出前授業

- ・都立大江戸高校（7月19日13：30～）、内容「パネルシアター」、参加者17名
- ・都立小岩高校（3月18日9：45～）、内容パネルシアター、参加者15名

#### ③校内見学

- ・都立大森高校（9月29日10：00～）、内容 学校紹介・入試説明、模擬授業等、参加者2年生19名。
- ・県立庄和高校（10月6日13：00～）、内容 同上、参加者2年生19名。

入学定員充実という課題は一層深刻化した。オープンキャンパス参加者を増やすことが喫緊の課題である。入試広報課が進めている諸企画（「有明教育芸術短期大学福祉奨学金」、「有明教育芸術短期大学2年間で3年間学べる奨学金」、さらに平成31年度から始める「新カリキュラムの特徴」）を早急に実践して高校側への周知の徹底を図ることを願う。

アンケート調査では参加者の多くは、OCの内容に満足しているものの出願の向上に繋がっていないため有明教育芸術短期大学学内ワークスタディ（予算：521,400円）を活用し、学生のクラブ活動や学内外における諸活動の実際をOCで紹介する等により、参加者と本学学生が交流・歓談する機会を増やす。楽しめるOCになるようさらに努めてOC参加者における出願率の向上を試みる。

## 8 芸術的な素養を備えた保育・教育者養成の充実・強化

- (1) 教育課程再編成：平成 31 年度から始める教育課程再編成作業を終え、必要書類をもって文部科学省に再申請した（学則別表第 1 参照）。この申請では、本学の強みの実証に向けて現行の教育課程をさらに鮮明にすることを心掛けた。
- (2) 現行の教育課程に関する検証：本学の強みという観点から検証する作業を継続中である。同課程（カリキュラム）で新たに編成した授業科目を中心に授業見学（前期「保育教材研究 A（『うたと手遊び』と『音楽Ⅱ（うたと楽器）』、後期『保育内容（身体表現）』と『生活』）と検討会を実施して授業改善に資した。また、前期 21 科目（専任 14 科目、非常勤 7 科目）後期 30 科目（専任 15 科目、非常勤 4 科目）について学生アンケート調査を実施した。前期の結果に対するフィードバックコメントでは、学生の授業への姿勢にやや向上が認められたが、シラバス活用について検討すべき課題があることが示された。後期の結果については現在整理中である。

現行の教育課程に関する芸術的な素養を備えた保育・教育者養成の充実・強化という観点から検証については本年度末に一定の見解が得られるよう努め、その成果を 31 年度から開始する新教育課程に基づく授業の在り方に反映させる。

## 9 学生生活支援の充実・強化

- (1) 退学者：29 年度の退学者は 15 名（6.7%）で同 28 年度の 8 名に比べて 7 名増加した。学習意欲を理由に退学する者が 6 名（40%）、進路変更を理由にする者が 9 名（60%）であり、その傾向は平成 27 年度から継続している。

在籍者に対する退学の割合を 3%以下に留めるべく、授業への出席率が低い学生に対しクラス担任による個別指導に加えて教務委員会が定期的に呼び出して指導したが、退学者の数は減らなかった。但し、指導に応じない学生の保証人に通知するという措置を試みて改善をみたケースがあったので通知の時期を再考の上、次年度も保証人への通知を継続する（保証人への通知については事前に本人の了解済）。

また、学習意欲喪失や進路変更等を理由に退学する者が多いことから、学生が積極的な学園生活を送れるような支援の在り方を再点検した（後述参照）。
- (2) クラブ活動支援：28 年度からサークル活動の活発化に向けた支援を始めているが、29 年度は 28 年度に比較して、サークル数及び加入学生数は減少した（28 年度：サークル 6、加入者 65 名、在校生に対する割合 25.4%、29 年度：サークル 5、加入者 45 名、在校生に対する割合 20.0%）。

サークルが学年を超えて構成される（現状は希薄）よう支援する必要があるとの考えから以下の諸点を 30 年度の課題とした。

- ①「学習と表現の技法」：縦割りクラスで学生中心の授業遂行を徹底する。
  - ②新入生研修及び歓迎会：従来から採用していた宿泊を学内実施に改め、新入生が多くの上級生や教職員と接する機会にする。
  - ③新規に学生サークル活動補助費として、100,000 円の予算措置を講じる。
  - ④学生の自主性尊重を基にした教職員による環境整備等による支援を強化する。
- (3) 課外活動支援：以下の措置を講じ、学生の課外活動を支援することとした。
    - ①有明祭運営補助の増額：平成 30 年度に 10 年イベント経費を含めて 230,000 円の予算措置を講じた

(29年度：200,000円、執行190,712円)。

- ②学内ワークスタディの活用：30年度、附属図書館に540,000円、入学試験委員会に521,400円、子ども教育実践総合センターに63,000円の予算措置を講じて学生の課外活動を支援する。
- ③学長賞：学長賞を学生に周知する。

サークル活動や課外活動を通して学生が積極的な学生生活を送っている状況を学内外に紹介することは、学生募集対策の面でも有効であると考えます。

## 10 キャリア形成・就職支援体制の充実

就職を希望する卒業生の就職率は高い水準にあるが、公立の幼稚園・保育所・小学校に就職する学生が少ない現状を改善するためにキャリア形成・就職支援体制（1年次：目指す将来像実現のために何をやる必要があるかの明確化、2年次：将来像を実現するための行動の本格化、3年次：志望する就職先に対応した実質的・具体的支援）の充実を図っている。

平成29年度には、正規授業時間と調整の上、全学年を対象とするキャリア支援講座及び就職対策講座（東京アカデミーとのコラボレーション、受講費を補助）を開設した。また、保護者向けのガイドブックの配布、就職活動ガイダンス、就職活動セミナー、学内企業等説明会、一般企業希望者向けのガイダンス、就職試験対策講座、教員採用試験面接練習、公立保育士模擬試験等を実施した。

卒業生80名中、就職を希望しない1名を除き、79名が就職した。就職先では、保育所52名65.8%（28年度37名50.7%）、幼稚園4名5.1%（28年度15名20.5%）、施設5名6.3%（28年度6名8.3%）、一般企業11名13.9%（28年度13名17.8%）、その他0名0%（28年度1名1.4%）であった。

公立小学校採用者が7名であった（平成28年度公立小学校1名、保育所1名）。目標にしていた公立小学校・幼稚園等への合格者10名には達しなかったが、受講料を補助したことにより、1・2年生からの申し込みがみられたことやOC参加者からの質問が増えている。

現行の支援体制による支援が3年を終えた時点で改めてその成果を点検評価し、効果的な支援体制の再構築に資する。キャリア形成・就職支援体制の充実化を進めて学生募集に資する。

## 11 地域との連携・貢献

### (1) 連携事業

- ①幼児教育研究会：時代の動向を見据えて子どもの健やかな成長を支援するという趣旨で実施しており、本学の実習にとって有益な情報を得ている。参加した機関は江東区内の保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、江東区教育委員会（5機関、11名）であった。
- ②ボランティア活動：江東区教育委員会との連携事業協定に基づき、同区立の小学校及び幼稚園に学生各1名を派遣した。

### (2) 子育て支援事業

- ①子育て講座（2回実施）：前期に「わらべうたベビーマッサージ」（親子6組参加）、後期に「うたおう！あそぼう！たんさいぼう！」（親子16組参加）を実施した。
- ②親子サロン・FURAN：年間33回実施。延べ乳幼児201名（平成28年度延137名）、保護者167名の参加があった。尚、親子サロンは、1年後期開設の「プレ実習」事後指導として活用している。
- ③「親子で楽しむ夏祭り」：平成29年8月24日実施、保護者30名、子ども34名の参加があった。学生ボランティア18名が参加した。

④「水の日イベント」：事務局・子供教育実践総合センター共催で平成29年8月1日に実施。

135名の参加があった。

(3) 子供発達相談：月～金曜日、10：00～ 16：00、申し込みに応じて随時実施、相談件数1件有。

(4) 講習会等

①免許状更新講習会：11講座開設し、延べ286名が受講した。

②保育の職場体験事業事前オリエンテーション：学生募集につながる可能性はあるため協力。高校生70名が参加した。

なお、東京オリンピック・パラリンピック開催期間のボランティア活動への参加については、関係機関と連絡・調整中であり、準備を進めている。

以上の連携及び支援事業の多くは長年継続しており、かつ学生のキャリア形成等でも役に立っているため今後も継続する。

(以 上)

## 平成29年度 日本音楽高等学校 事業報告

I 建学の精神や教育目標に基づく、目指す生徒像と学校像の目標を達成するために、以下の通り実施した。

### II 平成29年度の取組み

#### 1 生徒募集への全教職員による積極的な取組み

(1) 平成30年度入学者数 3/31(金)現在 ※( )内は、昨年度の数  
 応募者数96名(104名)・受験者数93名(103名)・合格者数90名(99名)・  
 入学者数65名(73名)＋留年1名

※昨年度入学生より普通科幼児教育コース→音楽科幼児教育コース

＜コース別入学者数内訳＞		A・・・単願		B・・・併願			
幼児教育	A 8 (2)	B 0 (0)	一般 3 (4)	合計 11 (6)			
音楽	A 15 (11)	B 0 (0)	一般 1 (3)	合計 16 (14)			
バレエ	A 15 (14)	B 1 (0)	一般 6 (13)	合計 22 (27)			
舞台芸術	A 10 (16)	B 0 (1)	一般 6 (9)	合計 16 (26)			
合計	A 48 (43)	B 1 (1)	一般 16 (29)	合計 65 (73)			

※三浦学園奨学金13名

(内訳 成績特待：3名・実技特待：2名・OG特待：2名・近隣4区特待：4名・校長枠特待：2名)

(2) 中学生の学内行事への参加のべ数 ※( )内は、昨年度来校した中学生のべ数

	音楽	バレエ	舞芸	幼教	未定	合計
日音祭	11 (12)	21 (30)	26 (9)	5 (3)	15 (5)	68 (59)
体験入学 6回	123 (47)	203 (97)	104 (74)	44 (30)	0 (1)	474 (249)
学校説明会 4回	43 (59)	73 (140)	56 (64)	32 (23)	3 (0)	204 (286)
サトウハチローミュージック	16 (11)	25 (19)	26 (20)	8 (7)	32 (17)	107 (74)
音楽講習会	27 (23)					

平成29年度は、体験入学を2回増やしたことや本校のPRの効果が現れてきたこともあり、28年度に比べて学内行事への中学生の参加が増加した。平成30年度も校外の進路説明会を含め、次年度目標とする入学者数85名を、5年計画で定員100名の入学者の実現に向けて具体的方策により尽力する。

#### 2 豊かな人間性の育成

(1) 基本的な生活習慣の確立

全教室へ額に入れ、建学の精神と教育目標を掲示して意識向上を図っている。

また、生活目標「あ：あいさつ、じ：時間、み：身だしなみ、こ：言葉遣い、し：姿勢」を教員に指導を徹底するとともに生徒会の取組の一つとしても様々な場面で出来るようになっている。特にあいさつに関しては、平成30年度の重点目標とした。

(2) 日々の環境整備・校内に観葉植物、新聞・絵画・書等の掲示をし、音楽を専門とする女子校としての環境を整えた。また、毎日の朝の清掃活動や地域のボランティア活動を実施している。

(3) 年2回「心と体のアンケート」の実施・・・定点観測して比較予定・養護教諭の分析及び担任への周知し、三者面談で保護者への啓発に活用・改善している。昨年度、この取組が保健関係の雑誌に掲載され、評価されている。

(4) 昨年度、学生会館を整備により、昼休みと放課後を開放することで生徒が休息・学習・ミーティング等で使用している。自販機の設置も生徒に好評である。

### 3 確かな学力の向上

「知性と芸術の融合」のもと、専攻実技や専攻実習の技能と表現を高める指導とともに基礎的な学力の定着・学習意欲の向上・希望の進路を実現する学力の向上を図る。(※音楽科各コースの専攻実技も『学力』として捉えることを周知)

#### (1) 朝読書・朝学習、夏期休業中の講習及び各種検定の実施状況

- ・定期考査前2週間の朝学習(実施時間7:40~8:10)  
国語:月・木 数学:金 英語:水・木 音楽:火(授業者1回300円)

(参考)国語:森田24回・奥山24回、数学:伊庭8回

英語:菅沼16回・兒玉16回、音楽 松田9回 小川8回

- ・夏期休業日の講習の実施(授業者1コマ1000円(講師を除く))

第1期 7月後半 4日間

第2期 8月後半 4日間

国語:森田90分×4コマ・奥山90分×4コマ

社会:塚本90分×4コマ、数学:伊庭90分×4コマ

英語:菅沼90分×4コマ・兒玉90分×4コマ

鈴木講師90分×4コマ(出講票にて対応)

- ・生徒の能力に合わせた各種検定の実施(英語検定・漢字検定)

#### (2) 日々の専攻レッスンや実習に向けて、練習や準備が進むように年2回のアンケート調査を実施し、一般教科の学習とともに改善を図らせた。平成29年度は、ふりかえりノート「フォーサイト」を使用して、一週間のレッスンや実習までの準備や自宅学習の時間の確保等を自己管理できるように進路主任や担任から指導してきた。アンケートによる業者の分析から大きな効果と改善がみられる。

#### (3) 各コースの特別レッスンを国内外の講師を招聘して実施した。講師代はコース別企画書の予算で対応している。

##### <音楽コース>

合唱指導	古橋富士雄氏・片野秀俊氏
ピアノコンサート	ミラン デヴェターク氏(スロベニア人)
ピアノアンサンブル	皆川純一氏
ピアノコンサート	浜川潮氏
管弦打楽器クリニック	本学講師(Ob・Fl・Cl・Hr・Tp・Tb・Mar)7名出演
声楽・ピアノ	黒川浩氏(フェリス女学院大学教授)
海外音楽交流会	ハワイ・パシフィック大学との音楽交流会
第4回OGコンサート	武蔵野音大・東京音大・洗足学園・昭和音大・東邦音大・14名出演
音楽雑誌「月刊ピアノ」	本校の紹介ページ掲載

##### <バレエコース>

コンテンポラリー	平山素子氏
タップダンス	本校講師(FIMIKO)
ワークショップ	磯真琴氏(本校卒業生)ロンドンで活躍中
合同オープンレッスン	堀内充氏・榎本真弓氏(P伴奏)
ジャイロキネシス	鈴木真由氏(本校卒業生)
舞台照明	山本英明氏
衣装製作	室谷浩子氏
バレエコース30周年	21名のOGの出演

##### <舞台芸術コース>

エンターティナー	廣瀬愛氏(サリオピェーラント)
リズムダンス	上田亜希子氏(琴羽桜子:元宝塚歌劇団・本校卒業生)
日本舞踊	花柳花風香氏
ミュージカル	阿部よしつぐ氏(劇団四季)

< 幼児教育コース >

リトミック 山田麻美子氏 (有明教育芸術短期大学)  
 パネルシアター 柏木麻衣子氏  
 ゆたか児童センター交流企画 (年6回)

4 豊かな個性と創造力の伸長

(1) 平成29年度の進路実績 (音楽・バレエ・舞台芸術・幼児教育)

H30.3.31 現在

■ 四年制大学 (23名) ■

尚美学園大学	芸術情報学部	情報表現学科	1名
尚美学園大学	芸術情報学部	舞台表現学科 ダンスコース	1名
聖徳大学	心理・福祉学部	心理学科	1名
洗足学園音楽大学	音楽学部	声優アニメソングコース	1名
洗足学園音楽大学	音楽学部	ジャズコース	1名
洗足学園音楽大学	音楽学部	ピアノコース	1名
洗足学園音楽大学	音楽学部	弦楽器コース	1名
洗足学園音楽大学	音楽学部	ミュージカルコース	3名
洗足学園音楽大学	音楽学部	バレエコース	6名
城西国際大学	メディア学部	メディア情報学科	2名
東京国際大学	社会学部	人間スポーツ学科	1名
日本女子体育大学	体育学部	運動学科 舞踊学専攻	1名
日本大学	芸術学部	音楽学科 声楽コース	1名
日本大学	芸術学部	演劇学科 洋舞コース	1名
武蔵野音楽大学	音楽学部	演奏学科 声楽コース	1名

■ 短期大学 (5名) ■

昭和音楽大学短期大学部	音楽科	バレエコース	1名
戸板女子短期大学	国際コミュニケーション学科		1名
戸板女子短期大学	服飾芸術科		1名
東京福祉大学	短期大学部	こども学科	1名
桐朋学園芸術短期大学	芸術学科	演劇専攻	1名

■ 専門学校 (15名) ■

アミューズメントメディア総合学院	声優タレント学科	1名
国際文化理容美容専門学校	美容科	1名
篠原保育医療情報専門学校	子ども保育学科 夜間部	1名
尚美ミュージックカレッジ	ミュージカルコース	4名
タカラ美容専門学校	美容師科	1名
東京英語専門学校	英会話専攻	1名
東京工学院専門学校	芸術・エンターテイメント系ミュージック科	
	ミュージシャンコース	1名
東京ダンス&アクターズ専門学校	ダンス&アクターズ科ミュージカル俳優コース	1名
東京福祉保育専門学校	こども学科	1名
東京ビジュアルアーツ	ダンス学科	1名
日本外国語専門学校	キャビンアテンダント・エアライン科 エアラインコース	1名
代々木アニメーション学院	声優タレント科	1名

■ 就職 (1名) ■

株式会社ぜん	ピラティス講師	1名
--------	---------	----

■ その他 (6名) ■

株式会社レイ・グローエンターテインメント		1名
東宝株式会社	シアタークリエ	1名
国際バレエアカデミアバレエ団		1名

スターダンサーズバレエ団 ジュニアカンパニー	1名
INTERNATIONAL LANGUAGE ACADEMY OF CANADA, TORONTO	1名
4月以降 バレエ海外留学	1名

(2) 自己実現を図る系統的で組織的で個に応じた進路指導

・各学年とも年間計画に基づきそれぞれの企画が実施された。学年全体での企画として、面接への対応についての指導、進路ガイダンスと進路体験報告会を実施した。

- 進路ガイダンス 6月21日(水) 3年生対象
- 進路体験報告会 7月18日(火) 全生徒対象
- 進路ガイダンス 12月16日(土) 1, 2年生対象
- 進路体験報告会 3月17日(土) 1, 2年生対象

※本校進路推薦内規(改訂版)の周知

(3) 平成29年度各コースのコンクール・コンテスト・部活動の入選・入賞等

<音楽コース>

- ・第19回洗足学園ジュニア音楽コンクール【本選】奨励賞 3年・2年：声楽専攻
- ・第27回日本クラシックコンクール予選通過(本選10月) 2年：Ob・Tp・Cb
- ・第41回ピティナ・ピアノコンペティション【本選】
  - <東日本デュオ3地区 連弾中級B> 奨励賞 1年：ピアノ専攻
  - <東日本F級1地区・東日本デュオ1地区連弾上級> 入選 1年：ピアノ専攻
  - <東日本F級2地区・東日本デュオ2地区連弾上級> 入選 1年：ピアノ専攻
- ・第27回日本クラシック音楽コンクール【本選】全国大会出場：優秀賞 2年：Cb
- ・第34回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール本選出場 2年：Tp
- ・「ハワイ パシフィック大学との音楽交流会」
- ・「J C D A 合唱の祭典2017」第18回北とぴあ合唱フェスティバル
- ・品川区政70周年記念「ふくしまつり2017 & 1000日前フェスタ」
- ・「第4回音楽コースOGコンサート」
- ・「しながわ 夢さん橋 2017」
- ・「管弦打楽器クリニック」(女子中学生対象) 講師 (Pf・Ob・Fl・Cl・Hr・Tp・Tb・Mar)
- ・「音楽コースコンサート2017」(女子中学生対象) (Sop・Pf 連弾・女声合唱・Pf 講師演奏)
- ・「ふれあい交流会」品川区立三木小学校体育館
- ・「第11回 第九を歌おう! in きゅりあん」
- ・品川シルバー大学同窓会主催「クリスマスコンサート」

<バレエコース>

- ・第21回FLAP全国バレエコンクール2017夏 優秀賞(2名)
- ・第7回かわさき全国バレエコンクール2017夏 優秀ファイナリスト賞(決勝出場)
- ・全日本バレエコンクール ファイナリスト
- ・ジャパングランプリ 第6位-6
- ・第21回NBA全国バレエコンクール<コンテンポラリーの部> 第5位の2・レスポワール賞  
<クラシックバレエ 高校生女子の部> 奨励賞
- ・オールジャパンバレエコンクール 入賞
- ・第8回鎌倉全国バレエコンクール<第5ブロックシニアの部> 第7位スカラシップ賞
- ・第1回横浜バレエコンクール<シニアの部> 第6位 トスカーナ州立バレエ学校サマースクールスカラシップ
- ・第6回ジャパングランプリコンペティション<シニアの部> 第1位
  - \*同コンクールで今年度卒業生も創作舞踊の部第1位を受賞
- ・第11回松戸全国洋舞コンクール<クラシックバレエ シニアの部> 第1位・審査委員特別賞
- ・「第3回バレエコース交流会=バレエコース設立30周年記念=」
- ・「バレエコンサート 2017」

<舞台芸術コース>

- ・「舞台芸術コースコンサート 2017」

### < 幼児教育コース >

- ・ ゆたか児童センター「高校生と赤ちゃんとのふれあい事業」
- ・ 「品川区民まつり 2017 = 荏原第5地区 =」

### < 合唱部 >

- ・ NHK全国学校音楽コンクール<東京都高等学校の部:予選 B>金賞(6年連続金賞受賞)  
    <東京都高等学校の部:本選>優良賞
- ・ 「春のコーラスコンテスト(春こん)2018」<高校生の部>銅賞

### < ダンス部 >

- ・ 第64回東京都高等学校ダンス発表会
- ・ 第70回全国中学校高等学校ダンスコンクール奨励賞

### < 演劇部 >

- ・ 第40回東京都高等学校文化祭演劇部門地区大会山手城南地区A日程
- ・ 校内発表会

## 5 学校運営体制の強化

### (1) 入学選抜の適正な実施

- ・ 入学選抜に係わる試験問題の検討と作成及び願書の受付から合格発表、入学手続きまでの入学選抜に係わる進行管理は適正に行われた。

### (2) 全校生徒に充実した学校生活を送らせる高い満足度をもてるように指導をしているが、今年度、様々な理由でやむを得ず途中転学または退学した生徒の数は、以下の通りである。個々にその原因は違うが、保護者の理解を含め丁寧な対応と指導で減らしていく。

#### < 理由の一例 >

- ・ 生活指導上課題があり、怠学傾向で進級卒業できない。
- ・ 座学の学力はあるが、専攻実技がついていけない。都立高や私立高に転学。
- ・ 在学中、コンテストやコンクールに入選し、留学するために通信高校に転学。
- ・ 遠距離のため保護者と離れて暮らすことで精神的に不安定になる。
- ・ 中学生から不登校傾向にあり、集団生活に適合できない。

#### < 途中転学や退学者数 >

1年	幼：0名	音：0名	バ：2名	舞：0名	計	2名
2年	幼：1名	音：1名	バ：1名	舞：1名	計	4名
3年	幼：1名	音：0名	バ：1名	舞：0名	計	2名
合計	幼：2名	音：1名	バ：9名	舞：3名	計	8名

#### ※参考(転編入)

- ・ 音楽コース：転コース(舞より1名)  
    転入(1年：星美学園より・2年国立音大より)
- ・ バレエコース：転入(1年：埼玉県立芸術総合高校より)

## 6 開かれた学校づくり

### (1) 教育情報の積極的な発信

- ・ 家庭用PCだけでなく、携帯やスマホからの見られるようになり、保護者・生徒だけが見られる連絡欄や学校だよりをはじめとする新着情報を週に一度は更新している。女子中学生が興味・関心をもってもらえそうな本校の行事の情報や入試に関する情報もアップしている。
- ・ 中学生の募集に関して、新年度の学校案内の完全リニューアルするにあたり募集対策委員会が中心となって進めた。今年度は、部分的に改訂し、5月23日感性予定である。
- ・ 校長の学校だより、各学年・各コースのたより等、生徒の様子や活躍の状況を多くの保護者・地域・中学生に知ってもらえるようにビジュアルも含め改善する。

(2) 併設の幼稚園・保育園・有明教育芸術短期大学との連携

- ・幼児教育コースの生徒による週に1度の併設の幼稚園・保育園の実習や行事の手伝い等を含め、連携をより一層深めていく。
- ・有明教育芸術短期大学の教授による幼児教育コース（リトミック）の特別授業を行っている。昨年度は短大での授業体験&見学会など実施した。

(3) 地域との連携

- ・荏原第五地区の清掃ボランティア活動に参加している。
- ・大井町駅前で開催したオリンピックパラリンピックの関連した品川区の行事や大崎駅前の「しながわ 夢さん橋 2016」イベントに音楽コースの金管アンサンブルが参加した。また、「三木小ふれあい交流会」に音楽コースの管弦楽アンサンブル女声合唱&ピアノ連弾で参加した。
- ・幼児教育コースは「ゆたか児童センター交流企画」＝赤ちゃんとのふれあい講座＝に年6回の計画的に参加した。次年度も参加予定がある。また、荏原第五地区の「品川区民まつり 2017」に受付や幼児のゲーム等の手伝いを行った。
- ・生徒会役員は、年2回荏原第五地区清掃活動に参加した。次年度は、奉仕活動委員会を立ち上げ、協力者を募っていく。また、生徒会役員・荏原警察署員・下神明駅員の協力のもと「痴漢撲滅キャンペーン」に参加した。（警察署より表彰）
- ・華道部4名と顧問で、「2016 品川区民作品展」に生け花で参加した。
- ・日音祭やサウンドオブミュージック上演に関して、日頃からお世話になっている区役所管理職や小・中学校生徒や近隣住民を招待した。

(4) 学校運営連絡協議会の実施 6月22日（木）

(外部委員)	保護者代表	永徳屋あすか（父母と教師の会会長）
	同窓会代表	埴京子（同窓会会長の代理として出席）
	地域関係機関代表	蜂屋隆子（品川区立大崎中学校長）
	地域社会代表	網嶋信一（品川区商店連合会副会長）
(内部委員)	校長	菊本和仁
	教頭	松本幸浩
	副教頭	渡邊裕子
	事務局長	根岸順一

- ・学校側から、本校の概要、教育活動の計画、魅力ある本校の教育内容、募集状況などについて説明した。募集を含めて本校への支援、協力を要請した。
- ・その後の情報交換の中で、地域の中に積極的に出てくる様になり日音の知名度も上がり、評判も良く成ってきているとのご意見を頂いた。今後も地域に出てきて更に日音、日音生の良さを伝えるために場所や機会の提供を続けるとの意見も頂いた。
- ・本校の公開行事への地域の方の参加も増えてきており、更に定着させ、中学生の入学の増加に繋げる方法の一つとして、平成30年度も開催する予定である。

## 7 教員の資質向上

(1) 管理職の授業見学

- ・管理職（校長・教頭）が、専任および教科講師や実技講師の授業（レッスン）の年間計画に基づいて授業見学を行いアドバイスすることにより、生徒にとって「わかる・できる授業（レッスン）」を目指す。

(2) 校内研修会

- ・教員の指導力向上のために、毎回の教員会30分間で校長を講師として教育課題に関する研修会を実施している。また、私立中高協会からの予算を使って、昨年度に引き続き、高知大学の鹿嶋真弓准教授を講師として招聘し、研修課題「学級担任によるカウンセリング」について全教員で研修を行った。次年度も実施する予定である。保健関係では、食物アレルギーをもつ生徒へのエピペンの使用やAEDの使用について全教員対象に研修を行った。

- (3) 生徒による授業評価
- ・年二回（7月と12月）生徒による授業評価を行い、各教科の教員や講師の反省材料とするとともにPDCAサイクルで授業改善を行っている。
- (4) 授業力向上のための研究授業（学期ごと年3回）と校内授業研修会
- ・6月2日（金）森田真由教諭（国語）、12月18日（月）菅沼公和教諭（英語）、2月（未実施）の授業を教員で参観した。生徒による授業評価に基づき、習熟度別に差のある生徒への対応を課題として教員全体での研修会を行うなど、一人ひとりの教員の授業力の向上に努め、生徒の授業への興味・関心の喚起と理解度の向上を図った。また、9月と1月の2回、生徒による授業評価に基づく教員研修会を行った。
  - ・赤点を取った生徒への効果的な指導法について、朝学習、放課後講習の実体のある活用を含め、具体的な方策を指導法を含め引き続き検討する。
  - ・授業への興味・関心を高め、習熟度に差のある生徒に対しての学習意欲を喚起するために教材研究や授業方法の工夫などが一人ひとりの教員によって進められている。今後はその実践報告を含め、研究授業の実施等も検討したい。
- (5) 自己申告書による面接及び業績評価
- ・校長と教頭が4月・10月・2月に自己申告書による面接を実施し、自己の課題を明確にし、学校経営のへ参画意識をもって教育活動を行う。このことにより業績評価、教員の指導育成に生かす。
- ※29年度、専任教員2名（国語：森田・理科：大尾）の退職により、国語・数学の新規教員を採用した。

## 8 学校施設管理と学校事務の充実

- (1) 予算の執行
- ・事務所との連携を図り、無理・無駄・ムラのない予算の執行を行う。
  - ・学園や事務との相談のもと、施設・設備（校舎・校庭・ホール）の長期的・短期的な修繕を目指す。（※保護者からの指摘や要望）
- (2) 通知書
- ・今年度まで、手書きによる通知書の所見を行ってきた。今年度は通知表もデジタル化してファイルに納めて保護者に渡せるスタイルに変更した。複数人による確認して作成することにより、転記ミスをなくす。
- (3) 情報の管理
- ・パソコン内の個人情報、持ち出さないこと、学校内で作業を行うこと。また、個人情報の入った〇秘書類は、裏紙活用に回らないようにシュレッダーにかけるなど確実に励行する。
  - ・教科や学年やコースが作成する起案文書（案）は、必ず教頭に提出し、校長の承認を受ける。
- (4) 授業料の未納者
- ・事務所担当との連携を図り、期日までの確実な納金を目指す。未払い者に関しては段階を追って連絡を取り、計画書を作成させ理事長の確認を取るようにする。

## 平成 29 年度 日本音楽学校幼稚園事業報告

品川区は保育園の建設を級ピッチで進めており、平成 30 年度 4 月からは 15 園が開園され、更に乳児が対象であったのが 3 歳児以上も募集対象となっており、私立幼稚園にとっては脅威である。

今のところ、品川区私立幼稚園の 18 園が新制度への移行園はないが、各園共、園児獲得のためには、様々な取り組みをせざるを得ないのが現状となっている。

例えば：1 歳児、2 歳児教室などの定期的な運営や園バスを園児の自宅まで迎えに行く園や、早朝の預かり保育時間を 7 時から無料で預かる園等、園児獲得の低年齢化と共に、共働き家庭の利便に沿っての工夫や動きなどがある。

特に 2 歳児については、母子分離で週 5 日間預かる園や週 3 日間の園もあり、3 歳児獲得を確実に繋げている。保育料としては、月 ¥ 30,000 位である。

また、3 歳児入園の合格を 6 月に実施する園もあり、親は早く安心出来るのでと好評との声もある。

当園も上記の状況を踏まえ、園児獲得のために確実な方法での工夫が必要だと考え、平成 29 年度は 2 歳児教室に通ってきた未就園児を在園児、卒園児の関係者と共に、優先的に入園合格の方向を実施し平成 30 年度 4 月、3 歳入園児は定数に達することができた。

一方、預かり保育も保育園化の方向での条件が強化されてきており、11 時間保育は元より、長期休業期間に対する対策も条件をクリア出来る様に努めてきた。

さらに、平常時の預かりは「遠足」を学年で実施日をずらした結果、休まずに済ませることができた。

なお、園児の心身共に健全な成長を願い、教員と保護者との連携を細やかにし以下の通り園児を見守っていききたい。

### 1 平成 29 年度、年間教育重点目標についての報告

年間教育目標：身近な環境とのかかわりに関する領域より「環境」に取り組んだ。

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活の取り入れて行おうとする力を養う。

当園は緑豊かな園庭や校庭が自然環境に恵まれた上、近隣も中央公園、戸越公園、文庫の森公園と園児にとって、園外保育の場所には事かかない環境である。年長組は学校巡りを兼ね、少し遠い学校には、行きは歩き、帰りは電車に乗って帰ってくる等と実体験にも力をいれた。年中、年少組も近隣に散歩に出かけ、街の人々にふれ、花を頂いたり、声を掛けてもらったりとふれあう機会や歩く事で体力も付き「環境」に対する目標は達成できた。

### 2 教員の資質向上への取り組みについての報告

- ・今年度は当園の勤務が 1 年目と 2 年目の教員と教員の交代があり、園児への対処のみならず保護者への対処にも細やかさが求められており、教員全体での話し合いや主任、園長との連絡を密にするなどに努めた。
- ・品川区私立幼稚園主催の特別支援教育の研修には、預かり保育の時間を短縮することにより、全教員が参加しやすくなった。

- ・品川区私立幼稚園の研修は参加しやすいが、外部研修への参加は夏休みに限られてしまい、平常時の研修は行事とぶつかり、今年度も参加しにくかった。

### 3 特別強化授業についての報告

- ・器楽指導の結果は各小学校での卒園児の活躍が聞こえてきており、「伴奏賞」「指揮賞」等で表彰され、どの小学校でも主要楽器は卒園児が占めているとの報告がある。
- ・英語やリトミックは園児が喜んで参加し、小学校に進んでからも幼稚園での学びが活かされ自信を持って学習に臨んでいる。
- ・体育に関しては、今年度も授業を受ける機会が少なかったため、出来る事は担任が指導にあたってきた。今後も基本的な事は普段の保育の中で身体を動かしていきたい。

### 4 園と保護者とのつながりについての報告

子ども達の健全な心身の成長のためには、保護者の園活動への協力が必要である。特に園児が定期的に預かり保育を利用している家庭とは、担任、預かりの担当者、更に主任と複数の教員が関わり連携を密にして保護者との心の交流を大事にして行きたい。

### 5 預かり保育の強化についての報告

就労する母親が増え、預かり保育は長時間利用児や長期休業期間の利用児の増加がみられる。また、補助金の支給条件も年々強化されてきたので、長期預かり期間時の（夏、冬、春）の実施や、出来るだけ全学年が一斉に休む日を減らすため、遠足を学年ごとに実施する等の工夫をした

### 6 幼稚園と小学校との連携についての報告

給食体験：宮前小学校と戸越小学校

職場体験：宮前小学校が来園

展覧会への参加：宮前小学校

ふれあい交流会：三木小学校にて当園年長児が鼓笛隊の曲を演奏した。

### 7 地域との関係についての報告

- ・子育て支援として：園庭開放の実施（無料） 年間を通し 学期に2回 水曜日  
午前11時45分～午後12時30分
- ・子育て相談：無料にて園庭解放や2歳児教室開催の日に教員が担当。

以上の事は今年度も実施し地域の皆様に好評だったが、年々、参加者が1歳児からと低年齢化の傾向がみられ、この点は園児募集対策につなげていった。

### 8 平成30年度入園募集への取り組み結果についての報告

- ・在園児：8名 卒園児：5名 外部：22名 計35名の定数
- ・2歳児教室での園児の確保を優先としながらも、保護者の中には保育園と幼稚園との選択に迷いもみられるので、2歳児教室においても確実な希望者を見極めていくことが必要である。

平成29年度

## 園外研修実施一覧

月 日 時 間	研修内容	講 師	対象教諭	受講料
5月11日(木) PM 5:30~ PM 8:00	「子育て支援を考える」勉強会	吉田 正幸	水本 傳川	主催 エデュ・ケア ¥2,000×2
5月19日(金) PM 5:30~ PM 7:30	「食物アレルギーの知識と幼稚園における対応」	今井 孝成	水本・伴野 川地・傳川	主催 品川区私立幼稚園協会 無 料
6月2日(金) PM 5:30~ PM 7:30	「特別支援教員研修」 事例研修	川上・重松 清文	水本 川地 傳川	主催 品川区私立幼稚園協 ¥500×3
7月29日(土) AM 10:30~ PM 5:00	「読み聞かせは心の脳に届く」 「ココロさんに会いたくて」 「やまんば母さんのないしょ話」	泰羅 雅登 片山 健 富安 陽子	水本・佐藤(文) 佐藤(奈)・伴野 川地・傳川	主催 文京こどものとも社 ¥6,500×6
7月31日(月) AM 9:30~ PM 16:00	「子どもの体力・運動能力を高める 保育・教育に生かす運動あそび」 講義「子どもの健康づくり・理論と運動」 実技「運動会種目」 実技「リズム体操・体遊び・ 身近な物や廃材を使った運動」	前橋 明 永井 伸人・藤田 倫子	佐藤(文) 川地 傳川	主催 ジャクエツ ¥9,500×3
8月1日(火) AM 9:30~ PM 12:30	行事下見 「ポリショイサーカス」		佐藤(文) 傳川	主催 東京新聞 東京中日スポーツ tvk 無 料 招待券
8月7日(月) AM 9:00 ~ 8日(火) PM 16:00	園長研修 園長会及び鎌倉ガイド協会の講話		水本	主催 品川区私立幼稚園協会 ¥10,000
8月22日(火) AM 9:00~ PM 3:30	教員研修 「幼稚園に関する苦情・クレーム対応」	関根 眞一	水本・佐藤(文) 佐藤(奈)・伴野 川地・傳川	主催 品川区私立幼稚園協会 ¥4,000×6
9月21日(木) PM 3:30~ PM 4:30	学園内研修 「応急手当・AED・CPR・エピペンの使用」	児島 智美	水本・佐藤(文) 佐藤(奈)・伴野 川地・傳川	主催 三浦学園

# 平成 29 年度 日本音楽学校保育園事業報告

## 《年間事業》

### 1 基本方針

・日本音楽学校保育園は保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育課程に沿って年間指導計画・月週日案を細かく立案し、一人一人の園児の発達に合わせながら日々の保育を細かく丁寧に実践してきた。又、日本音楽学校が目指す建学の精神である、あいうえお（愛情・意欲・うつくしい言葉・笑顔・思いやり）を大切にして保育内容の充実に努めてきた。

### 2 保育実践

- ・園目標実現のため、今年度からクラス打ち合わせを月二回として、より保育内容が細かく話し合えた。
- ・保護者に保育内容を伝えるため、保育指導案（月案）を掲示して見てもらった。次年度は日々の活動内容も伝えていき、常に様子が見える保育を進めていきたい。
- ・年間を等して音楽に触れ、季節の歌・わらべうた・手遊び・リトミック（表現遊び）を楽しませたり、鈴・カスタネット・太鼓・マラカス・タンバリン・キーボードの楽器を身近に置き、いつでも触れながら音楽が楽しめるようにした。保護者会や運動会・音楽会で披露する機会も多く喜んでいる。
- ・絵本・紙芝居・パネルシアター・人形劇等、年齢にあった内容を年間等して取り入れ楽しめるようにした。2才児は好きなお話を簡単なオペレッタ風にして、音楽会で発表したり、さようなら会でも堂々と演じた。
- ・近隣の公園にもたくさん足を運んで遊ぶことが出来た。砂場の遊具やシャボン玉・宝物入れのバックも手作りの物を持参し、子ども達の興味ある探索遊びも盛んにして、活動の幅を広げてきた。四季折々の自然に触れたり、今年度は雪遊びの体験もできて満足していた。
- ・体育的な遊びもいろいろ取り入れることができ、四肢を使った運動遊び（登る・渡る・くぐる・ぶら下がる・飛ぶ・こぐ・蹴る等）ができた。
- ・室内ではコーナー遊びを充実させるため、手作りの流し台やドレッサーを作ったり、遊具の数を増やすなど工夫してきた。保育時間が長いので一日の中で動と静の内容を考えたり、興味に沿った設定をしてきた。
- ・日本古来の行事に沿った製作遊びや、外部元保育士による楽しい製作も月に一度だが毎回楽しく遊べる題材で喜んでいる。手・足型やフィンガーペイント、絵の具、マジック等様々な教材等工夫して楽しんでいる。保護者からも自宅の壁に全部飾っているとの声が聞かれて、子育てが喜びに繋がるようになればと思っている。
- ・年間等しての行事は各担当が計画し、皆で参加できる内容や、保護者と共に楽しめるように工夫してきた。参加人数がとても多く、皆で盛り上がり「我が子の成長が伺われた」「楽しかった」との感想が今年度も多く寄せられ、職員の励み繋がっている。
- ・2才児は夏野菜の栽培を体験し、食に関心を持ったり、収穫の喜びを体験し、クッキングにも関心を示し、自分で作った物が口に入るととても喜んだ。調理職員の協力がとても良く毎回理解を示してもらっている。なかなか家庭では経験できないので今後も年齢に見合った取り組みを進めたい。
- ・長時間保育・土曜保育・延長保育の遊びや捕食なども、指導案の中で考慮して保育にあっている。

### 3 地域交流

- ・全ての行事に地域の方をお誘いしたり、入園前の見学時にも声をかけている。掲示板にも予定を示し気軽に足を運んでもらえて子育ての楽しい時間になれるように意識している。子育て相談も何かあれば伺うようにしている。ハロウィンでは商店街のかたとの交流も続いているし、今年度は近隣のお年寄りの通所施設（デイケア）とも初めて交流を持った。喜んで頂いたり子ども達も優しい顔で一時が過ぎせいい経験ができた。来年度も計画したい。
- ・近隣保育園交流は、品川区立二葉・ゆたか保育園 2 園と進める事ができた。園庭でのどろんこ・夏祭り・焼き芋・広いホールでの製作遊び等々、当園ではとどろあ祭り・ベンちゃんと遊ぼう会・人形劇絵本の読み聞かせ等に参加してもらった。他には図書館やセンターにも出かけていき社会に触れる機会となった。

### 4 職務分担・職員勤務形態

- ・各係はねらいに沿っての立案を全体に提案し、準備を進めながら保育運営が実施できた。
- ・折に触れ保護者からの声や日常の連絡帳・園だよりで出す行事等の感想から、日常の保育の取り組みについていろいろ伺えるようにして評価してもらい、より良い保育内容に繋がるよう進めてきた。玄関のホットフォトも行事や日常の様子を出来るだけタイムリーに伝えるようにしている。\*写真販売の声もあるがシステムがなかなか難しい。
- ・今年度は18時～17時30分までの保育時間の園児が多く、土曜日も6～8名だったので、職員の勤務態勢をかなり工夫して保育に望んできた。標準時間（8時間以上）勤務の方の利用がますます増えているので、職員体制も十分整えないと成り立たない現状がある。特に年齢が小さいので、夕方の疲れもあり、一人一人を十分受け入れたいが定数対応の職員では無理があり、もう少しゆとりが必要。
- ・ここ数年新人職員の育成に時間をかけ指導を重ねてきている。各リーダーの打ち合わせも設け、特に記録の取り方・保育準備・保育計画立案に時間をかけている。

○初めての第三者評価を受けて、保護者・職員員からのアンケートを基に園の運営全体の事を見直す事が出来た。課題もいろいろ出されたので、次年度に一つずつ取り組み改善をしてバランスのとれた保育ができるように進めたい。

### 5 研修（園内自主研修及び園外研修）

#### (1) 園内研修

- ・手作り遊具作り実践・・・ペットボトルの蓋とフェルトを利用して、穴落と遊具を作る。  
各クラス分を用意し、手先の遊びとして保育に取り入れ活用した。
- ・リズム遊び研修後、職員に還元し日常の保育やお楽しみ会・運動会・音楽会に取り入れて実践してきた。今後も参加し新しい教材を増やしたい。
- ・品川区や私立保育園主催の研修にも参加し、保育内容や、保育情勢等学ぶ機会がありとても有意義だった。保育指針が改訂されたので、次年度もできるだけ内容を選んで参加し、保育内容充実に繋げたい。

#### (2) 園外研修 \*別紙一覧表参照

年間保育内容（園児状況）・行事状況

<p>一期（４・５・６月）</p> <p>○園児受け入れ人数・・・０才８名・１才１１名・２才１１名 計３０名。７月より０才９名で３１名。 アレルギー対応・・・白身魚（鯛）、心臓疾患児（納豆除去）、保護者の希望でマーガリン不使用。 １才児の新入園児４名が２・３月生まれが入園のため月齢が低く、アルバイト職員等全体でカバーしながら保育に当たった。２才児の心臓疾患・喘息の子に対しても、常に体調を見ながらの活動を考えて進めてきた。散歩に行けず園で過ごすことも有り、職員対応が厳しい状況にあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して日本音楽高等学校幼児教育コースの実習生を受け入れて子どもとの触れ合い。</li> <li>・４月「各クラス・全体保護者会」、５～６月に保育参加実施。＊０才は食事場を保育観察にした。</li> <li>・各クラス「月案指導計画」保護者向けに掲示。「べんちゃんと遊ぼう」月１回２才児と製作遊び。</li> <li>・交流保育・・・品川区立二葉・ゆたか保育園と打ち合わせをし、年間計画を立て６月から交流開始。</li> <li>・夏野菜の栽培（２才児がベランダで野菜を育て、食事に出してもらおう）。</li> <li>・「はじめましての会」「こどもの日」「ファミリーデー」と年齢なりに製作に関わり進められた。</li> <li>・４月の健康診断（眼・耳・鼻・歯）を１０時から実施、高校生の協力でスムーズに進んだ。</li> </ul> <p>○第三者評価業者→“学研”に決まり７月～２月まで実施。 ○第一回拡大委員会開催。</p>
<p>二期（７・８・９月） ９月１才児１名退園 ⇒ １名入園 計３１名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プール開きを７月３日に実施後、１・２才児は学生会館前で水遊びを楽しむが、８月になって日照日が少なく、プール遊びは数える程しかできなかった。０才児は保育園協で温水遊びを行う。</li> <li>・「プール開き」「七夕の会」「プール閉め」「お月見会」「敬老の会」・・・１５名参加。「とどらあまつり」には二葉・ゆたか・日音幼稚園児・保護者・近隣の子どものたくさん参加があつて盛況だった。</li> </ul> <p>○第三者評価の保護者・職員向けのアンケート調査と、９月２３日訪問調査実施。</p>
<p>三期（１０・１１・１２月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・２才児クッキング保育始まる（お月見の団子作り）。今後クッキーやピザを計画する。</li> <li>・「運動会」雨天のため中ホールにて実施。テーマ『ちびっ子動物運動会』１８０名参加。</li> <li>・「ハロウィン」で近隣の商店の方や、今年度初めてデイケアとの交流ができ、子ども達が歌ったり、踊りを見せて大変喜んで頂いた。今後も無理のない程度でお年寄りとの触れ合いを計画したい。</li> <li>・個人面談実施。＊サツマイモの収穫・・・大小１０本程育っていた。＊「絵本の読み聞かせ」。</li> <li>・「お楽しみ会」みちくさサークルによる、人形劇・わらべ歌等楽しむ。二葉・ゆたか保育園も参加。</li> <li>・「小さな音楽会」園児の祖母による歌や高校生幼児教育コースのパネルシアター・クラスの出し物。</li> <li>・「お楽しみ会食」もバイキングスタイルでとても喜んで食べた。○第２回拡大委員会開催。</li> </ul>
<p>四期（１・２・３月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新年おめでとう会」「豆まき」「保護者会」クラスのレジュメを写真入りにして成長を伝えた。</li> <li>・「ひな祭り」会食会。「お別れ遠足」しながわ水族館。「お弁当遠足」文庫の森公園。</li> <li>・「絵本の読み聞かせ」２回目。 ・クッキングで２才はピザ・３月に１・２才でクッキー作り。</li> </ul> <p>○平成３０年度新入児健康診断及び面接１３名。健康面特に問題なしで入園決定。欠員なし。 ＊オリエンテーションは昨年のように三月の最終土曜日開催。○第３回拡大委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とどらあさようならの会」小ホールにて実施。卒・転園児１３名・・・幼稚園３名、保育園１０名。</li> <li>・今年度はインフルエンザ等の伝染病も少なく、全園児健康に一年が過ごせた。</li> </ul> <p>○２月第三者評価の結果が公表されて、マニュアルの整備や子どもの人権基本書等改善点が見えた。</p>

月 日	研 修 名	研修内容	講 師	時 間 ・ 場 所 対象者	受講料
5・19 (金)	第一回特別支援講習会 気になる子の理解と支援		上原芳枝氏	14時～17時 品川区役所 田中	品川区主催 無料
6・23 (金)	保育力アップ研修 (講演会) 「主体的に生活や遊びに関わる子どもを育むために」 武蔵野大学准教授		箕輪潤子氏	14時～17時 品川区役所 木田	品川区主催 無料
7・6 (木)	保育プラザ研修 (全国保育団体)			13時～16時30分 飯田橋保育プラザ	5,000円 ×3人
7・7 (金)	0才児・1才児・2才児の発達と保育			小島・小林・竹元	(15,000円)
7・10 (月)	0歳・吉田真理子氏 1歳・斉藤政子氏 2歳・清水玲子氏				
7・14 (金)	食育講演会「保育職員が知っておくべきアレルギー疾患の基礎知識」		医学博士 今井考成氏	14時～17時 品川区役所 藤巻	品川区主催 無料
7・28 (金)	新幼児教育セミナー 「脳と創造性」 子どもの無限の可能性について “トリプル改訂”を読み解く保育指針		茂木健一郎氏 篠原孝子氏	9時15分～16時 浅草公会堂 安藤	ひかりのくに 主催 (6,000円)
7・31 (月)	幼児のことば遊びの会			浅草公会堂	ことば遊び研 究会5,500円×
8・1 (火)	思わず子どもがわらっちゃう!遊び歌! 遊びながら育っている子ども達		鈴木翼氏 柴田愛子氏	10時～17時35分 木田・窪	2 (11,000円)
8・7 (月)	芸術教育学校 乳幼児のリトミック遊び 「はじめの一步」		津村一美氏	中野サンプラザ 10時～16時 藤巻・田中	8,300円× 2 (16,600円) 4,104円
8・12 (土)	学研・夏の講習会 リズム遊び ケロポンズ・福田 翔氏 他			品川きゅりあん 10時～16時 芝崎	7,200円 (7,200円)
9・12 (火)	社会福祉事業従事者人権研修 東京都人権啓発センター		小笠原俊治氏	東京都社会福祉保健医療 センター 田中	東京都主催 無料
9・20 (水)	事例から学ぶ新保育所保育指針 聖徳大学大学院 講師 篠原孝子氏			荏原第五センター 14時～17時 安藤	品川区主催 無料
9・21 (木)	「一次救命処置」 AED・CPRの実習 日本音楽高等学校養護教諭 児島先生			日本音楽高等学校 14時～15時 全職員	
10・27 (金)	「こども虐待を考える」 品川子育て支援センター子育て応援夜間講座 子どもの虐待防止センター理事		片倉明子氏	荏原第五センター 18時30分～20時30分 金子・小島	品川区主催 無料
11・28 (火)	第二回特別支援講演会 チーフアドバイザー		阿久津栄氏	14時～17時 安藤	品川区主催 無料
1・19 (金)	リスクマネジメント 星槎大学共生科学福祉専攻		砂田純一郎氏	14時～17時 田中・永井	品川区主催 無料

\*他 五反田ぷりすくーる保育見学・・・金子・芝崎